

# 滋賀県における外来魚対策について

関 慎介（滋賀県農政水産部水産課）

## 【はじめに】

滋賀県では、昭和40年から昭和50年にかけてブルーギルが散見され、昭和49年にオオクチバスが琵琶湖で初めて確認されました。また、平成25年度以降、新たな外来魚としてチャネルキャットフィッシュの捕獲確認が増加しています。これら外来魚は、在来魚を捕食するなど、その異常繁殖に伴い琵琶湖漁業だけでなく生態系にも大きな影響を与えています。滋賀県では、昭和60年度から外来魚対策を開始し、積極的な駆除対策や繁殖抑制対策に取り組んでいます。

## 【駆除対策について】

### ◎外来魚駆除促進対策事業

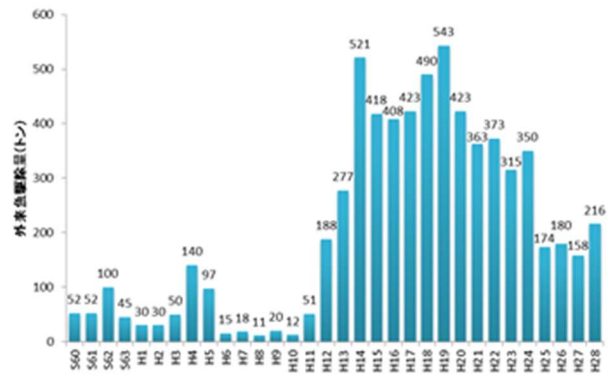
漁業者によるエリや刺網等を利用した外来魚の捕獲駆除に対して補助を行っています。

〔平成28年度駆除量 206.3トン〕

### ◎外来魚繁殖抑制対策事業

オオクチバスの稚魚が産卵床付近の水面を群れになって泳ぐ習性を利用し、タモ網による稚魚の捕獲を行っています。

〔平成28年度実績 581万尾〕



### ◎外来魚産卵期集中捕獲事業

滋賀県は、オオクチバス親魚を捕獲することで稚魚の発生を抑制することを目的に、マザーレイク滋賀応援寄付金を活用し、平成24年度に電気ショッカーボート「雷神」、平成25年度には同「いかづち」を導入し、駆除を行っています。平成27年度からは、漁業者自らが電気ショッカーボートを使った外来魚駆除体制の確立に向けた検討もあわせて行っています。

〔平成28年度実績 3.6トン〕

### ◎外来魚駆除フォローアップ事業

年間の駆除目標を達成するには、これまで駆除活動が低調であった時期にも積極的な活動を展開する必要があります。そこで、漁業者の自主的な取組とは別に、県が主導的に漁法や時期を指定した駆除活動も行っています。

〔平成28年度実績 4.4トン〕

## 【外来魚推定生息量】

外来魚の推定生息量は、平成19年4月の2,098トンから平成25年4月には、988トンに減少しました。しかし、それ以降、再び増加に転じ、平成28年4月においては1,131トンと推定されています。

